



第 1 8 号
平成27年 11月発行

朝日庄内森林生態系保全センター

〒997-0404
山形県鶴岡市下名川字落合 3
TEL : 0235-58-1730
FAX : 0235-58-1731
E-mail:t_syounai_f@rinya.maff.go.jp
Home Page:http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/asahi/

朝日山地合同パトロール

朝日山地合同パトロールは、朝日山地森林生態系保護地域の保全と適正な管理を目的に、巡視員及び東北局職員との合同による森林生態系の異常の有無等（高山植物の盗掘、踏み荒らし、登山道の荒廃や危険箇所の確認、森林病虫害の被害等）を確認するとともに、入山者に対するマナー啓発活動（パンフレットの配布含む）などを実施しています。

①泡滝ダム（鶴岡市）～南俣沢出合（西川町）【1泊2日】



朝霧に包まれる以東岳と狐穴小屋

9月26日（土）～27日（日）の合同パトロールは、山中巡視員、高野山形署長、藤田経営計画官、当センターの加藤所長、小倉専門官の精鋭部隊5名で実施しました。

今回のルートは泡滝ダム（鶴岡市大鳥）を出発して、大鳥池（標高960m）～以東岳（1,771m）～狐穴小屋（宿泊）、高松峰（1,440m）～ニツ石山（1,312m）～天狗角力取山（1,376m）～竜ヶ岳の下方を下り南俣沢出合（西川町大井沢）までの総距離約27km、両日とも9時間以上に渡るタフなコースでした。



2日目 狐穴小屋出発前



青空と紅葉が迎えてくれました

初日は雨も心配されましたが、夕暮れが迫る午後5:30頃狐穴小屋に到着。高野料理長の温かい野菜スープで心も体も暖まり、疲れを癒やしました。2日目は午前5時に起床し、アップダウンの続く難コースを山中巡視員のペース配分や高野署長の歩行技術指導などをいただきながら無事に下山しました。ご協力いただいた皆様、大変ありがとうございました。

②朝日鉱泉～御影森山（朝日町）【日帰り】

9月26日（土）、瀧川巡視員、五十嵐森林官、山形森林管理署職員2名、センター職員3名の計7名で日帰りコースの合同パトロールを実施しました。

登山者へのマナー啓発の声かけについては、前日から当日朝にかけての雨のため入山者に会えず実施できませんでしたが、保護地域内において植物の採取や伐採、既設登山道を外れた踏み込みやゴミの廃棄等は見られず、登山者のマナーの高さがうかがえました。マツノクロホシハバチやウエツキブナハムシの生息は確認されませんでした。今回参加した職員の内3名が若手ということもあり、瀧川巡視員や五十嵐森林官から山歩きの技術等を教わるなど管内の山の現況を実践で学びながら無事巡視を実施することができ、有意義な巡視になりました。



山の見方等を実践

朝日山地森林生態系保護地域巡視員会議（秋季）

夏山シーズンに終わりを告げた11月15日（日）、鶴岡市の朝日中央コミュニティセンター（すまいる）において秋季の巡視員会議を開催しました。

巡視結果に対する意見交換では、ゴミの投棄や登山道以外への目立った踏み込みが見られなくなり、入林マナーの向上がうかがえること。また、マツノクロホシハバチによるハイマツへの食害被害は減少傾向にあり、過去に食害のあったハイマツについても良好に葉が発生しており、枯れる心配がないとの報告もありました。

今後の冬山シーズンに向け、森林生態系保護地域内及び月山周辺におけるスノーモービルの乗り入れ自粛の呼びかけと巡視活動に取り組んで行くことを確認し終了しました。

午後からは、鶴岡市朝日庁舎の小野寺良寛氏より「出羽の古道 六十里越街道に関する話」と題した講演をいただき、庄内と内陸を結ぶこの街道にまつわる古くからの言い伝えなどに、全員が真剣に耳を傾けていました。



会議風景

人工林の天然生林誘導に向けた現地検討会

9月29日（火）山形森林管理署管内の朝日鉱泉周辺（朝日町）において、森林生態系保護地域内の人工林を天然生林へ誘導する取組について、管理委員会座長の菊池山形大学准教授の指導をいただき、朝日山地の巡視員（6名）及び朝日山地周辺の山形署、庄内署、置賜署の各署長及び担当職員並びに局担当職員と当センター職員の総勢24名において現地検討会を開催しました。



現地視察

この取組は、朝日山地森林生態系保護地域（平成15年3月策定）の管理計画において、当該地域内の人工林については「必要な施業を行い、将来は天然林に導くこと」とされており、今後の取組の推進に向け関係者による意見交換を目的に開催しました。

午前中は現地を視察して、植生調査、仮設苗畑、林分構造調査の各プロットの設定についての検討や間伐後のブナ等の広葉樹の侵入

状況等について、意見交換を実施しました。

午後からは、現地の視察状況等を踏まえ、天然更新が期待される母樹周辺を中心とした伐採や選木調査のあり方など、画一的ではなく、現地の林分状況に合わせた施業について、計画的かつ継続的な取組に向けて多くの意見が出されました。

本取組は、長期的な取組になりますが、この取組を通して天然林誘導の技術を見つけていくことを全体で確認しました。（本取組については、今年度の森林・林業技術交流発表会で紹介します）



意見交換

緑の回廊 土湯の森自然再生モニタリング調査

10月28日（水）、例年実施している最上川スキー場跡地における自然再生事業の成果を検証する植生モニタリング調査を、山形大学農学部の学生さん8名を中心に、地元住民の方、最上総合支庁、戸沢村、神室山系の自然を守る会、最上支署、当センター職員計27名で実施しました。

4班体制での調査でしたので、各班で調査スピードにバラツキが出ましたが、早く調査が終わった班が随時応援し、最後は全員で一丸となって対象箇所内の調査木を探索し合い、円滑に予定時刻より早く作業を終了しました。

来年度も調査を継続し、10年間のデータを蓄積します。



第9回目の植生モニタリング調査が終了しました

みどりの保育園

○みどりの里親活動

- ・鳥海山広葉樹林の探検

10月2日（金）「やまがた公益の森づくり支援センター」の白壁洋子氏をお招きして鳥海山広葉樹林内での種探しやネイチャーゲーム、猛禽類保護センターの見学などを実施しました。日頃、慣れ親しんでいるクロマツ林の「しんちゃんの森」とは違った広葉樹林を探検し、森林の多様性について学習しながら、秋の鳥海山を楽しみました。



森の恵みについてお話する白壁さん

- ・木製プランターづくりと植ええ

10月14日（水）前回の鳥海山広葉樹林の探検で採取したグミなどの種を植えるため、木製プランターを作りました。始めてカナヅチを使う園児達は、すこし緊張しながら慎重にカナヅチを使い、立派なプランターが完成しました。お絵かきをした後、プランターに土を入れグミなどの種を植え、来春、新たな芽を出して元気に育つことを願いました。

○野鳥用巣箱づくり

11月10日（火）巣箱づくりと巣箱の設置を行いました。

巣箱づくりを始める前に当センター職員から、巣箱の作り方や注意点などの説明がありました。園児が三～四人の八班に分かれて、それぞれの班に、先生、センター職員も仲間入りして巣箱づくりを行いました。

前回の木製プランター作りでも釘打ち作業を行ったことからカナヅチを数回振り下ろしただけで釘を打ち付ける園児や、釘が曲がったり、板から釘がはみ出す園児もいましたが、園児の頑張りでも素敵な巣箱ができました。

次に完成した巣箱に園児一人ひとりがマジックで小鳥のおうちに花の絵、鳥や自分の名前などを書きました。

それぞれの小鳥のおうちができあがった後、センター職員が「しんちゃんの森」のクロマツの木に巣箱を設置しました。

西荒瀬の野鳥さん、どうぞ「しんちゃんの森」においでください。



釘を曲げずに上手に組み立てできました

庄内海岸林整備

○遊佐中学生による海岸林整備

10月9日（金）遊佐町十里塚砂丘国有林1142林班において、遊佐中学校が平成12年から行っている砂防林整備体験学習に指導者として参加しました。

今年の体験学習には、遊佐中学校3年生116名のほか、地元森林ボランティア団体等総勢183名が参加し、20班に分かれて実施しました。

今回の体験学習の内容は、鋸での不要木の除伐、伐採した木を作業道脇に運搬、集積する作業で、当センター職員は5班、7班で班長を務め中学生の方々の作業指導・安全確保等に努めました。

中学生の皆さんは、鋸を使用した作業に不慣れな生徒がほとんどでしたが、ボランティア団体等の懇切丁寧な指導と生徒の皆さんの頑張りでもクロマツ林が見違えるほど綺麗になりました。最後に全員で綺麗になったクロマツ林を眺めて、達成感を感じ体験学習を終了しました。



みんなで協力して森林整備

森とみどりのフェスティバル

「庄内森とみどりのフェスティバル2015」が10月17日(土)、18日(日)に鶴岡市小真木原公園、10月31日(土)、11月1日(日)に酒田市国体記念体育館にて開催され、当センターも参加しました。

本フェスティバルは、森林保全活動や木材等林産物と触れ合う機会を提供し、森林・林業の役割や豊かな自然環境の大切さを広くPRするため毎年開かれています。



来場者へ審査員への協力を依頼

当センターのブースでは、朝日山地森林生態系保全地域の概要や、森林環境教育等地域で行っている活動をパネルで展示して紹介しました。また、毎回人気の「松ぼっくり釣り」、「木工クラフト」は今回も大盛況で、子どもから大人まで釣り竿、あるいは松ぼっくりやドングリ、小枝や板を手に夢中で取り組んでいました。

「朝日山地の写真展」については、例年になく多くの応募をいただき、審査をお願いした来場者の皆さんも「どれも素晴らしい写真ですね」と迷いながらも時間をかけて真剣に選んでおられました。

開催中の4日間はいずれも天気に恵まれ、センターのブースにも多くの方々に足を運んでいただき、一般市民の皆様からの声を聞く良い機会となりました。



酒田会場には地元の人気キャラクターや全国のネギにちなんだゆるキャラも登場



木工クラフトは大人気

保護区表示標識の設置・整備

平成15年3月、朝日山地森林生態系保護地域が設定され、順次大型表示標識及び保全利用地区・保存地区表示見出標が設置されているところですが、永年使用のため、破損及び消耗している箇所があります。

毎年度2回開催している巡視員会議においても、意見等が出ていることから、今年度は見出標を集中的に点検し、補修及び更新を行うとともに、場所によっては設置の必要性が希薄(入山者が歩けない箇所等)な所は、標識を撤去しました。



大型表示標識プレートの固定(南俣沢出合)

また、森林GIS端末により、見出標が設置されている場所を確認し、場合によっては移動させて、保護地区の正しい位置表示に努めるとともに、少しでも耐久性を保持させるため、保持する麻紐の径を太くする等、工夫しました。

平成27年度現在で、大型表示標識10基のうち、破損1基(愛染峠)、見出標30枚のうち、設置の必要性を勘案して、来年度以降は23枚に整理して管理していきます。



GISにより、見出標を適正な位置に設置

編集後記

平成27年度の山行シーズンが終了し、朝日山地の山々が白くなってきました。振り返ってみると、まずは災害も無く無事全員山行を終えられたことにホッとするとともに、残りの年度内も同様に安全行動を励行して、無災害で締めくくりたいと思っています。

歳を重ねる毎に、山行の厳しさが身に沁みるところですが、また行きたいと思うのが山であり、何回行っても毎回違う感動をもらえます。山って不思議だなあと思いつつ、来シーズンも登ります。(おぐ)



三方境でたたずむ山男達